

平成 30 年度第 1 回「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」 「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：平成 30 年 5 月 18 日（金）午後 6 時 30 分～8 時 00 分

会場：墨田区役所 12 階 121 会議室

1 次 第

(1) 開会

(2) 議題

- ア 委員紹介並びに会長の選任について
- イ 平成 30 年度子ども・子育て支援ニーズ調査について
- ウ 東向島児童館分館の愛称名について
- エ その他

(3) 次回開催予定

(4) 閉会

2 配布資料

資料 1 委員名簿

資料 2 次世代育成支援行動計画推進協議会に関する要綱 / 子ども・子育て会議条例

資料 3 子ども・子育て支援ニーズ調査に関する資料

資料 3 - 1 : 就学前のお子さんの保護者向け

資料 3 - 2 : 小学生のお子さんの保護者向け

資料 3 - 3 : 成人前の方向け

資料 3 - 4 : 調査項目の追加設問一覧

資料 4 東向島児童館分館の愛称名について

3 委員

(1) 出席委員（敬称略）

高嶋 景子（聖心女子大学文学部教育学科准教授）

野原 健治（社会福祉法人興望館常務理事）

松山 洋平（和泉短期大学准教授）

長田 朋久（横川さくら保育園長）

西島 由美（にしじま小児科院長）

服部 榮（社会福祉法人雲柱社理事長）

小林 恵子（両国子育てひろば施設長）

押田 剛（主任児童委員）

鈴木 真由美（青少年委員協議会委員）

甚野 永子（墨中地区青少年育成委員会委員長）

佐藤 まり子（ムーミン保育室施設長）

宮村 柚衣（ちゃのま保育園代表）

佐藤 達也（区民公募委員）

関 舞衣子（区民公募委員）

横井 貴広（区民公募委員）

河原 宏子（緑幼稚園長）
桂本 圭子（寺島保育園長）

(2) 欠席委員（敬称略）

岡田 真（江東学園幼稚園園長）
小出 誠一郎（緑小学校PTA会長）
小川 政美（吾孺立花中学校PTA会長）
小菅 崇行（東京商工会議所墨田支部副会長）
中村 信幸（連合墨田地区協議会議長）
賀川 祐二（NPO法人 病児保育を作る会代表理事）
本多 美絵子（両国幼稚園副園長）
田中 千春（区民公募委員）
中村 奈緒美（第三寺島小学校長）
渋谷 俊昌（吾孺第二中学校長）

4 傍聴者：0名

5 事務局

岩佐 一郎（子ども・子育て支援部長）
浮田 康宏（子育て支援課長）
高橋 義之（子育て政策課長）
金子 明（子ども施設課長）
村田 里美（子育て支援総合センター館長）

6 コンサルタント

株式会社名豊 糸魚川、池上

7 議事要旨

(1) 開会

事務局	これより開催する。 (委員出席状況と会議の成立、記録用の写真撮影と録音の承知、以上を説明。)
-----	---

(2) 議題

ア 委員紹介並びに会長の選任について

事務局	((資料1) 委員及び事務局の紹介)
岩佐部長	(委員へのあいさつ)
事務局	((資料2) 会長の選任について、立候補や推薦がないことから、事務局案として高嶋委員を提案した。出席委員の全員が賛成し、高嶋委員に会長職に就くことを決定した。)
会長	(あいさつ)

イ 平成30年度子ども・子育て支援ニーズ調査について

事務局	(資料3について、説明。)
会長	追加、削除などの意見はあるか。
委員	調査票は、年齢が特定されている子どもがいることを把握して送るのか。就学前の保護者向けの調査票にある、問3の生年月日は削れないか。委託事業者が集計をするのであれば、必要になるかもしれないが、省略できる可能性があると思う。

事務局	無作為で抽出して対象の方に送付するが、世帯は把握できるので子どもの生年月日についても把握できる。個人情報観点、年齢を調査票に入力することによる、コストや時間も想定と変わるので、確認する。
会長	項目が不要なのではなく、予め入力のおかげで送付するなど、別の方法ということか。
事務局	項目としては残したいが、記入の手間なども考えると、入力したもので送ることも一つの案であると思う。事務局で事務的なことも含めて検討したい。
委員	資料3 - 4の問2の「頻繁に…」という表記だが、「日ごろ」という文言がよいと思う。
事務局	意見を参考に検討する。
委員	送付先を把握したうえで送付すると言っていたが、ニーズ調査は住基に登録されている外国人の方にも送るのか。保護者が外国人の方に送っているとしたら、その方だとわかる項目があるのか。この調査票は外国の方が理解しにくい内容と思う。それを想定しているか。
事務局	対象は、外国人も含まれている。言語の問題で、読み取ることが難しい点もあるかもしれない。今後、調査票の作り方で、他言語のものを作るかという案もあるが、日本語を理解したうえでの調査と考えている。
委員	就学前の保護者向け調査票で、育児休業の設問の部分について、育休取得を推進していく方向や0歳児保育についての話があった。それと設問の33～35、37、39、40を削除するのは矛盾しているように思う。継続してきた質問の推移が、参考資料になるのではないかと、削除しないほうがよいと思う。
事務局	0歳児保育をやめるということではない。考え方として、育休を取得する意向の方を把握したい。矛盾ということだが、これまでの調査結果で、分かりやすい結果であるということから、細かいところまでは掘り下げなくともよいと思っているが、委員の意見を伺い、次回に検討していきたい。
会長	大事な項目である。この会議では、保護者の希望よりも保育に入所できないという不安から、育休を取らずに0歳の保育の人数が高くなっているのではないかと議論してきた。 1歳児定員を増やそうという議論はあったと思うと、十分に取れている状況なのか、取れてないときは何が原因なのかを分析して、対策につなげていく議論は必要だと思う。
委員	追加質問で、保育サービスを利用していない方に「育児休業制度が整っていれば…」と書いてあるが、「保育園に入れば」という文言が抜けていると思う。区の窓口に行くと「待っていても1歳では入れないので、今年(0歳のうち)に入らないといけない」と言われたという方がいた。その一方で、育休はあっても収入がないため難しいという方もいた。踏み込んで、育休制度について伺った方がよいと思う。母親が育休を取得していない理由として、「制度がない」という回答は減っているが、職場の雰囲気や収入の問題についての回答は増えている。父親も親族が子どもをみるということが減ってきていて育休が取りにくい、仕事が忙しいという回答は増えている。有意差はないかもしれないが、継続して調査することで傾向がはっきりするのではないかと。育休が2年になったということですが、育休をそれ以外の年数を取る人もいるので、質問の文言を変えたほうがよいと思う。
事務局	育休に関する項目を聞いたかどうかということなので、調査項目を精査していく。
委員	指標や判断の材料について、「量の見込みや指標に影響がないため」ということで削除しているが、そのような観点で確認すればよいのか。調査の目的を確認したい。

事務局	墨田区子ども・子育て支援事業計画を平成 30 年 2 月に改訂している。現行の計画が平成 31 年度末で終る。30 年度にその後 5 年間の計画を策定する予定であり、教育・保育の実態を調査するために行う。保育所を利用したい人がどれくらいいるのか等を伺い、世帯属性、人口、希望等を踏まえて、数値を算出する。それに対して、区が保育所の定員をどれだけ確保するのか等を計画する。削除したいという項目は、それに影響ないと判断したことである。まずはこれまでの経過に囚われずに、広く意見を伺いたいと思っている。
会長	今日の議論を受けて、次回に再調整をしたものを提示いただき、それを基にアンケートの実施になる。大きな議論は本日中にある程度進めなければならないと思う。
委員	全体を通して、発達障害に関する項目がないが、所管が異なるからか。
事務局	発達障害自体については所管が違うかもしれないが、保育でケアの必要な子どもへの配慮などについて、意見があれば、それをどう設問項目に盛り込むか考えるが、他の調査があるので、今のところは考えていない。
会長	他の調査との重複部分は除外しているが、対象はすべての子どもが含まれるということ。
委員	ニーズ調査をすることによって、どのように考えているのかというところが出てくると思う。これまでの調査で、区は方向性を示しているのか。
事務局	区としての考え方は、計画に示している。具体的には、待機児童の解消、保育の補充などを含めて推進していくことだ。今年調査で、新たなニーズを把握することにより、今後は何が必要になってくるのか、計画策定作業のなかで、新たな方向性を考えていきたい。
委員	設問 30、47、48 は、なぜ削除したいと判断したのか。問 47、48 は、日本の少子化対策に関係している設問だ。相応しくない質問として外してもよいのか。
事務局	法律において少子化対策を謳っていることに間違いはないが、現在の社会情勢を顧みて、子どもの数が多いほうが良いという前提があっているのか、そのような部分で悩ましいところだと思っている。計画の考え方としては、子どもが育てやすい環境を踏まえて、子どもが増えていくことが望ましい姿だ。そういったところで、区が安易に希望を伺う姿勢がよいものか。そのようなところで削除したいとした。意見を伺い検討したい。
会長	子どもが多ければいいのかということだが、欲しい人数と実際の人数とのギャップがある場合の理由を聞いている項目である。しかし、それ自体が適切なのかという意見もある。皆さんから意見を伺いたい。
委員	「子どもを 3 人産みなさい」と言って、怒られた議員がいたが、恐らくそういう風潮なのではないか。載せるのであれば「理想」よりも「欲しい」と書いたほうが良いと思う。いずれにしても「理想」はやめたほうが良い。
会長	理由に「保育施設として整備が十分ではないこと」「労働時間の問題について」などは出にくい選択肢となっているかもしれない。それらが答えやすい質問があったらよいと思う。 また、保育の数だけではなく、質の問題について考えると、どのような計画を立てていくか、新規の提案でもよいかと思う。
委員	就学前の幼稚園に求めているニーズはどのようなものなのか、調査を入れれば質の向上につながっていくと思う。
会長	就学前の教育・保育の希望について何かあるか。
事務局	指針も変わっているので、具体的に聞いたほうがよいことがあれば、取り入れながら質問項目を考えていきたい。

会長	すぐに具体的なところは難しいのであれば、期限を付けて、事務局に意見を提出することにしてもよいかと思う。
事務局	次回の会議資料に反映させるには、5月末までに電話等で意見をいただきたい。もちろん、次回の会議で意見を述べても構わない。

ウ 東向島児童館分館の愛称名について

事務局	(資料4について、説明。その後、集計。) 集計結果は、6番が得票数5票で「キラむこ」とします。今年10月の開設予定です。プレオープン後、また委員の皆様へ報告する。
会長	愛称が6番の「キラむこ」に決まったことを確認します。

(3) 次回開催予定

事務局	今回は、6月26日(火)18時30分より開催する。後日、改めて正式に通知する。
-----	---

(4) 閉会

会長	これにて、閉会する。
----	------------

以上